

第 13 回アジア太平洋環境会議（エコアジア 2005）

議長サマリー（仮訳）

2005 年 6 月 5 日 岐阜県岐阜市

1. 第 13 回アジア太平洋環境会議(エコアジア 2005)が、日本国環境省と岐阜県の主催により、日本国外務省と岐阜市の後援を得て、2005 年 6 月 4～5 日、19 か国の代表及び 12 国際機関の代表をはじめとする多数の参加を得て、岐阜県岐阜市において開催された。
2. 今年の 2 月に京都議定書の発効をうけ、今回のエコアジアは、持続可能な開発に向けた地域での取組み、とりわけ、再生可能エネルギーを推進に向けた取組の検討を目的に開催された。また、アジア太平洋地域の閣僚級の人々が各人の意見や視点を自由闊達かつ率直に交換する場のひとつとして、同会議では、各国内の多様なステークホルダー間の協力について広い視野から議論した。また、参加者は本会議に、「COOL BIZ」(クールビズ)で出席した。
3. 今回のエコアジアは、小池百合子日本国環境大臣が議長を務めた。小池大臣は主催者挨拶及び基調講演において、地球レベル及び地域レベルでの近年の環境問題に関する主な展開を概観するとともに、日本における展開についても概観した。また、京都議定書の発効、国連持続可能な開発に関する教育の 10 年、3R(リデュース、リユース、リサイクル)イニシアティブ、第 5 回アジア太平洋環境と開発に関する大臣会合(MCED5)、アジア太平洋環境開発フォーラム(APFED)について言及した。さらに、小池大臣は、「もったいない」精神を、とりわけアジア太平洋地域の人々と共有することの重要性を強調した。
4. 続いて、古田肇岐阜県知事が主催者挨拶を行い、岐阜県で実施されている様々な環境に優しい政策や具体的取組について紹介した。続いて、細江茂光岐阜市長から、環境と調和する、人に優しい都市・岐阜を実現するための取組みが紹介された。
5. また、2005 年 6 月 4 日に、エコアジアと平行して開催された再生可能エネルギー議員会議より、同会議の運営委員会を代表して、清水嘉与子参議院議員が挨拶を行い、同会議が気候変動、エネルギー安全保障、持続可能な開発の促進に焦点を当てていると言及した。また、同議員は、生活の質の改善における再生可能エネルギーの役割と、エネルギー資源をめぐる紛争リスクを低減する可能性について強調した。また、6 月 5 日には、同会議の運営委員会を代表して、小杉隆衆議院議員が、同会議において採択されたアジア太平洋地域における再生可能エネルギーの促進に関する政治宣言について報告を行い、エコアジア会議に受け入れられた。

6. 続いて、地球環境行動会議(GEA)の副会長である広中和歌子参議院議員から、GEA アジア太平洋地域国際エコユース会議（2005年6月2~3日開催、岐阜）の報告が行われた。同会議には、アジア太平洋地域 11カ国の青少年 14名や UNESCO、UNU、世界銀行の代表を含む約 20名の参加者があった。基調講演と国際機関による短い報告のあと、青少年たちから、ミレニアム開発目標(MDGs)と持続可能な開発に関する教育の 10年を促進するさらなる取組みに関する活動や経験、提言などが行われた。
7. 続いて、オーストラリアの APFED メンバーであるバーバラ・ハーディー博士から、気候変動に対する地域の取組みを促進することを目的とした「環境国際シンポジウム 2005 in たじみ（2005年6月3日、多治見市・セラミックパーク MINO にて開催）」の結果について報告が行われた。シンポジウムでは国内外の取組が紹介され、個人が積極的に取組むための方策や気候変動に関する国際協力について活発な議論が行われた。また、短期的にはトレーニングが、長期的に教育が重要であることが強調された。

セッション 1：地球環境問題対策に関する地域イニシアティブ

8. 第 1セッションでは、まず、岐阜県における、若者、NPO、企業の取組が紹介されるとともに、アジア太平洋諸国の取組やイニシアティブについての一般的な議論が行われた。岐阜、山県市立美山中学校の生徒二人からは、自然と直接に交流を行う環境学習に全校で取り組んでいることが紹介された。続いて、NPO 法人ネイチャー・サイエンスクラブの松村桂吾氏から、都市部の子供たちが参加する自然キャンプや企業の協力のもとに実施されている「ぎふ地球環境塾」などの活動について発表があった。最後に、名古屋パルプ株式会社の浅野卓志氏から、エネルギー効率を高め、同社の CO₂ 排出を削減するため、バイオマスを活用していることの報告があった。
9. 続いて、エコアジア参加者から各国及び国際機関における主要な進展が報告された。これらの進展として、(1)環境影響評価の強化、環境的に持続的な交通の促進、土地利用と水資源管理の統合など、個別分野における政策や事業に環境の側面が主流化し、(2)3R や拡大生産者責任制度（EPR）、エコラベル、経済的な手法や植林などの環境再生事業など新しい革新的な政策が導入されていること、(3)環境と貧困の解消や、MDGs などに盛り込まれているその他の重要な社会的な目標の連携を促進すること、(4)水資源、衛生、再生エネルギー、環境教育に関してコミュニティに根ざした対策が推進されていること、(5)北東アジアの黄砂防止、廃棄物の越境移動防止、地域海プログラムなど、国境を越えたイニシアティブが推進されていることなどが紹介された。

セッション 2: アジア太平洋環境開発フォーラム (APFED)最終報告書と今後の活動

10. 本セッションは、APFED メンバーによる APFED のこれまでの経緯と成果に関する報告から始められた。APFED 最終報告書は、2004 年に東京で開催された第 6 回実質会合で採択され、2005 年 3 月に韓国で開催された MCED5 のサイドイベントにて公表された。APFED 最終報告書は、アジア太平洋地域の概要、本地域の将来像、APFED 提言、APFED アクションプラットフォームで構成されている。100 を超える提言は、持続可能な開発に向けた統合的なアプローチ、多様なステークホルダー間のパートナーシップ、主要個別分野から構成されている。エコアジア参加者は最終報告書に含まれる主な提言に関する強い支持を表明し、提言の実施に向けた活動の重要性を強調した。
11. 参加者は、APFED 提言の実現に向けた取組みを示した APFED アクションプラットフォームを了承し、多様なステークホルダー間のパートナーシップによって、プラットフォームの主要な 3 つの要素である「マルチステークホルダー間の交流メカニズム」、「持続可能な開発に関する知識イニシアティブ」及び「持続可能な開発に関する革新のショーケース」を実施に移す必要があることを強調した。参加者は、APFED が本地域内でもユニークな取組みであることを示し、APFED がその第 2 フェーズにおいて、本地域における「ナレッジマネジメント」と「革新の促進」の中核となることを強く希望した。さらに参加者は、APFED が、その分析作業や提言の策定において多様なステークホルダーと協働してきた点で、大きな成功をおさめたことを高く評価した。

セッション 3: その他の活動

12. アジア太平洋環境イノベーション戦略プロジェクト (APEIS) に関して、APEIS の 3 つのサブプロジェクトである、統合的環境モニタリング (IEM)、統合的環境アセスメント (IEA)、革新的戦略政策オプション研究 (RISPO) について最近の 3 年間の進捗が報告された。エコアジアは、この 3 つのサブプロジェクトの成果を歓迎するとともに、本地域の多くの研究機関の連携がこのプロジェクトを通じて促進されてきたことを評価した。また、参加者は APEIS がミレニアム・エコシステムアセスメントなど、国際的なイニシアティブに対して実質的に貢献していることに言及した。
13. 会合では、最近の 3 年間の成果を元に準備されてきた、APEIS の新しい展開 (第 2 フェーズ) を歓迎した。会合は APEIS が本地域における持続可能な開発に向けた政策を策定するために有用な科学的なツールや政策オプションを提供しつづけることを強く要望した。会合は、政策の妥当性を保ち、また、能力開発における研究成果を活用するため、プロジェクトが政策決定者と緊密な連携をとりつづけるべきであると提案した。会合の参加者は、APEIS の研究成果が実現可能なものとなる必要性を指摘するとともに、これに関し、APEIS と他

の政策フォーラム、例えば APFED の第 2 フェーズとの連携を強めるべきとの提案を支持した。

14. 会合は、この地域の多くの開発途上国が実質的に参加していることに注目し、3R イニシアティブを国際的なレベルに引き上げようとする日本政府の主導的な役割を歓迎した。参加者は、アジアにおける循環型社会を実現するためのビジョンを発展させるとともに、本地域において 3R に関する能力構築を支援すると、日本国による提案を支持した。会合はまた、3R の実施を評価するための方法、市民の意識啓発、また、e-waste マネジメントに関する将来の活動の重要性について言及した。

エコアジア 2005 議長

小池 百合子